

4. トラブルとその対応事例

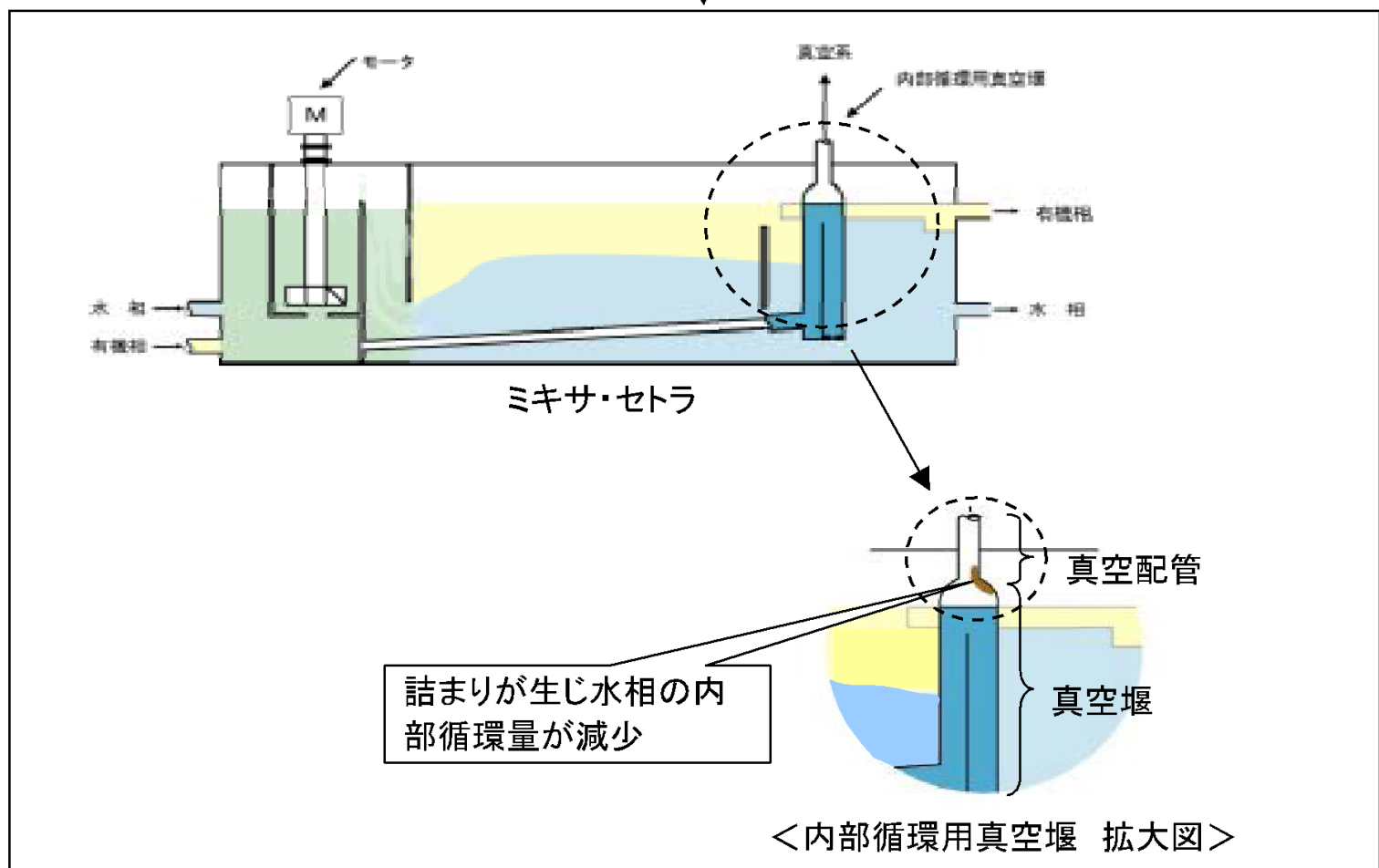
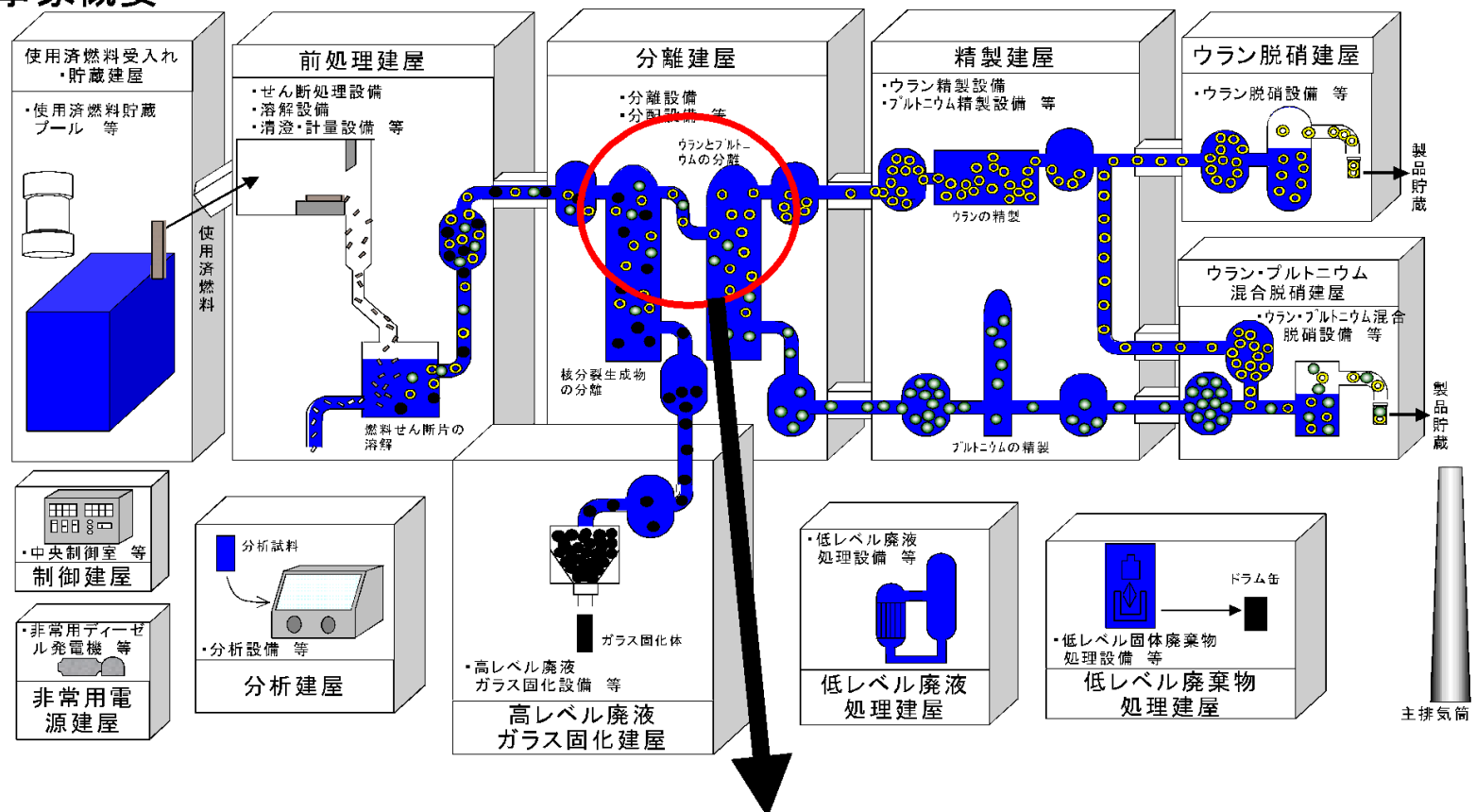
4-1. 発生が想定される軽微なトラブル事例

事象分類別（a. 詰まり・堆積）

1-13. ミキサ・セトラの内部循環用の真空配管における詰まり																	
事象の概要																	
(1)発生場所：機器		分離建屋：ミキサ・セトラ（溶媒再生工程）															
(2)設備の概要		分離・分配工程でウランおよびプルトニウムを抽出するために使用した溶媒を再利用するため、使用した溶媒から劣化した成分を除去する設備。劣化成分が移行しやすいアルカリ溶液と有機溶媒とをかく拌した後、静置することにより、水と油が分離するのと同様の性質を利用して、アルカリ溶液中に劣化成分を除去する。															
(3)発生の状況		ミキサ・セトラの運転中															
(4)概要		ミキサ・セトラ内の内部循環用真空配管が析出物により詰まり、水相の内部循環量が少なくなることによって劣化成分の除去効率が低下。 ＊他の建屋も含め同種の機器においても、同様の事象の発生が予想される。															
(5)原因		運転を継続することで発生する詰まり（予め対応手順を定めている）。															
事象による影響																	
(1)工場外への影響		工場外への影響は生じない。 放射性物質を除去するフィルタ等を有する分離建屋の塔槽類廃ガス処理設備が稼働しているミキサ・セトラ内で起きた事象およびそれに伴う復旧作業であり、放射性物質の放出等の工場外への影響は生じない。なお、本事象は放射性物質の漏えいを伴うものではない。															
(2)安全性への影響		安全上の問題は生じない。 一時的に溶媒再生工程を停止して詰まりを除去するため、これ以上事象の進展はなく、安全上の問題は生じない。なお、劣化成分の除去効率の低下は、ウランおよびプルトニウムの抽出に支障を及ぼすものではなく、安全確保に影響はない。															
(3)作業員への影響		作業員への影響は生じない。 ミキサ・セトラの真空配管の詰まり除去は、定められた放射線管理計画書に従って作業を進めることにより、放射線による作業員への影響は生じない。															
(4)他工程への影響		他工程への影響は生じない。 溶媒再生工程を一時的に停止し、速やかに真空系を水洗浄して、詰まり除去後、運転を再開するため、他工程への影響は生じない。ただし、詰まり除去に時間を要する場合は、分離建屋内に設置している一時的な貯留槽の残液量で運転継続の可否を判断する。															
対応の概要		1.真空配管の詰まりであることを確認する。 2.溶媒再生工程を一時停止する。 3.定められた作業手順に従って、内部循環用真空配管に水等の洗浄液を流し、詰まりを除去する。 4.内部循環用真空配管の詰まりが除去されたことを確認した後、定められた操作手順に従って運転を再開する。															
公表区分		毎月集約して月 1 回公表（ホームページへ掲載）															
連絡区分*		<table><tr><th colspan="3">トラブル情報</th><th colspan="3">運転情報</th></tr><tr><td>A 情報</td><td>B 情報</td><td>C 情報</td><td>ごく軽度な機器故障</td><td>清掃・調整等で復旧可能な機器停止等</td><td>不適合等</td></tr></table>				トラブル情報			運転情報			A 情報	B 情報	C 情報	ごく軽度な機器故障	清掃・調整等で復旧可能な機器停止等	不適合等
トラブル情報			運転情報														
A 情報	B 情報	C 情報	ごく軽度な機器故障	清掃・調整等で復旧可能な機器停止等	不適合等												

＊：『A情報』：安全協定報告事象等、または、それに準ずる事象、『B情報』：事象の進展または状況の変化によっては、安全協定報告対象になるおそれのある事象等、『C情報』：A、B情報に該当しない軽度な不具合、汚染等、特に連絡を要する事象

事象概要



復旧方法

清掃や調整により復旧

トラブル等に伴う設備への影響範囲

当該機器を停止して復旧

